

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
6 教図	家庭 042	家庭基礎 出会う・かかわる・行動する 代表著作者 武藤八恵子

## ★基本コンセプト

生徒が日常の生活体験から問題を見つけ、その解決のために知識の習得を重ね、自ら考え、自分らしい生活をつくり、他者とかかわりながら市民社会の一員として行動できるように、以下の点に配慮しました。

- ①生徒が親しみをもって学習できるように、架空の高校生「ケンタ」とその家族、友人たちを設定し、イラストや文章で、多くの場面に登場させました。自分の生活を見つめ直すヒントとなることをねらっています。
- ②全体の構成は、「Ⅰ 生活を見つめ直す」「Ⅱ 人と出会う、かかわる」「Ⅲ 買う、生かす、捨てる」「Ⅳ 生活をつくる」としました。中学校家庭科とのかかわりや、生徒のこころの発達などを考慮して、生活の要素をすべて含む「生活の器」である「住生活」領域から始まるものとししました。
- ③各章は、家庭科の学習を自分自身の問題ととらえられるように、写真やイラストを効果的に用いた「INTRODUCTION」ではじまるものとししました。また、大項目のはじめには、高校生の日常生活に身近な場面をイラストと言葉（「ケンタ」ら、キャラクターのつぶやき等）で示し、興味をもって学習に入っていけるようにしました。
- ④生徒が自ら課題を考えるためのヒントとして、「わくわくワーク」（ワーク的内容）、「コラム」（読み物）、「実験コーナー」などを適所に設けました。
- ⑤学習指導要領に示されていない内容を含む「発展的な学習内容」については、「発展」コラムとして、各領域に2つずつ入れました。生徒の興味や学習の進み具合によって、積極的に読んだり取り組んだりできるように、生徒の興味を刺激する内容を取り上げました。

## ★各章の内容 囲み内は学習指導要領の対応項目

### ■口絵

生徒が驚きと感動をもって学習内容に興味を示すよう、原寸大の赤ちゃんの写真など、ダイナミックな表現を取り入れました。また、人の一生や生き方について、多面的に考えられるような内容を取り入れました。

## I 生活を見つめ直す (2)ウ・ア・イ

---

### ●第1章 住まう ●第2章 食べる ●第3章 装う

- ・自らの生活を見直しながら学習していけるように、各章それぞれ「食品を買う」「気に入った服を長もちさせる」など、普段の生活行動に即した項目名をたてて展開させました。
- ・実習は、理解が深まるように、イラストや写真を効果的に使用して構成しました。
- ・自分らしい生活をつくっていけるようにという願いを込めつつ、社会の中で必要となるルールや他者とのかかわりの重要性を意識させる配慮を盛り込みました。

## II 人と出会う、かかわる (1)ア・イ・ウ

---

### ●第1章 家族とともに ●第2章 育つ・育てる ●第3章 シニアとともに

- ・家族、子ども、高齢者について知るだけでなく、ふれあい、はたらきかけることを通して、あらためて自分を見つめ直し、人とのかかわりをつくっていけるような構成としました。
- ・大人と子どもの中間に位置する高校生の実態に即した内容を取り入れました。
- ・自分のことだけを考えるのではなく、地域の中で、他者と積極的にかかわりあいながら暮らしていくことができるよう配慮しました。

## III 買う、生かす、捨てる (3)ア・イ

---

### ●第1章 消費生活と資源・環境

- ・高校生の生活に身近な携帯電話を経済活動の事例として各所で取り上げ、自分の消費行動と資源、環境とのかかわりを具体的に理解できるような構成としました。
- ・循環型社会をめざして、日常生活の中で実践できる環境問題を具体的に取り上げました。

## IV 生活をつくる (1)ア, (4)

---

### ●1 自分の人生をデザインする ●2 家庭科の学習をひろげる

### ●3 地域コミュニティの一員として

- ・まとめの章として、自分自身の生活を見つめ直し、あらたに創造していくことができるよう呼びかける内容としました。
- ・「2.家庭科の学習をひろげる」では、家庭科の学習を生活の中でどのように生かしていったらよいのかを、教科書の登場キャラクターと一緒に考えていけるように、会話形式の構成としました。
- ・教科書のまとめのページである「3.地域コミュニティの一員として」では、市民性（シティズンシップ）という方向性を示しました。社会の仕組みはだれかがつくってくれるものではなく、自分たちの行動や発言が社会を変革する力になっていくのだということを、具体的な例として示しました。
- ・家庭科の学習を、一生にわたって生かしていけるような発想を取り入れました。